

令和3年1月29日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口常雄

# き ず な

す 住 み よ い げん 元 き 気 な みどり 緑 の さと 郷 おお 大 くさ 草 の 野

## 謹賀新年 本年もよろしくお祈りします！

みなさん、新年明けましておめでとうございます。

さて、早々に11都府県に緊急事態宣言が出されました。

テレビに写し出される東京の様子を見ると、まあ仕方の無いことかなと感じる状況です。

テレビの街頭インタビューを受ける人達も、自分には影響がないと思うのか、「怖いです！」と言いながらも人混みの中にいるわけですから。これでは終息は中々おぼつか無いのかと思います。

令和3年も色々な計画や楽しみを我慢しながら過ごすのでしょうか、それにも限界がありますよね。

さて、令和3年最初の事務局だよりは、寄稿していただいた記事からまずご紹介しようと思います。

## 「1年生はすごかあ！！」

(大草野小学校と和光幼稚園の連携・交流)

年長園児は1年生に夏野菜植えや芋さし、芋ほり、そして、国語の勉強の「のりものクイズ大会」への招待などで教えてもらっています。

その時の園児の感想です。休み時間には校庭で遊具や鬼ごっこなどで遊んでいます。

幼児教育から初等教育への移行はその重要性が高まっています。また、嬉野市ではコミュニティ・スクール及び地域コミュニティなどによって、郷土愛の育成と学校・地域の活性化を目指した幼小中と地域との連携が熱心に行われています。今年残念ながら中止となりましたが、例年は幼稚園の運動会に1年生を招待したり、小学校の芸術観賞会に招待していただ

いたりなどの交流ができています。相互に教育方針を確認し、地域との交流を深めながら幼児教育の質を高めることを目指して参ります。

…◇・◇・◇・和光幼稚園・◇・◇・◇…

今回、和光幼稚園の福田園長先生から原稿を預かり、入力しながら、『今後もこんな形態もありだな』、と思いました。「事務局だより」だから、事務局が一人で作らなければならないと言う決まりはありません。

決まりは、月1回以上発行できればいいわけですが、行事が多いときはなるべく皆さんに情報を伝えたくて、月2回お届けしたりもしています。あまりに長文だとスペースに限りがありますので、400文字以内程度でまとめていただき、ご持参いただければ掲載していきたいと思ひます。

配布するのは、月はじめと15日前後です。お伝えしたいことがあれば、どうぞ！

# 「お宝スケッチ大会」 作品展示 (1/16~23日)

1月16日(土)午前9時に地域づくり部会の皆さんが集合し、1時間ほどをかけて、店舗のガラス窓に、全34作品を展示しました。例年は、年末までに行っていましたが、今年度は、諸事情のため例年より2ヶ月ほど遅くなってしまいました。これまでは、ボードを持ってきて貼っていましたが、今年度は営業があってありませんでしたので、ガラス窓に直接貼ることにしました。皆さんは最近の子どもたちの絵が、しっかり色が塗られているのにお気づきでしょうか？ 私たちの頃とは比較にならないほどです。私たちの頃は、色が塗れていない白い部分が多くありましたが、それだけ先生方の指導が



(1月16日:日 地域づくり部会員の皆さん)

行き届いているということだと思います。大きい画用紙に色を塗っていくことは、根気が必要です。それを黙々とやっている姿を想像することができます。

## <<入選した子ども達、頑張ったね、おめでとう!>>

学年	地区入選				校内入選		
1	田中 愛	宮原 昂大			松尾 泰我	中野幸琉郎	
2	福田 倫斗	西田 寧々	香田 りん	松尾 帆夏	中野 心陽	小濱 優来	林 奈生
3	西野 杏佳	三根 明莉	嶺 海斗	久保 藍璃	香田 宗佑	橋爪 和楽	野村 直央
4	尾崎 萌衣	横尾友里菜	矢沢 悠真		森下陽奈子	武川 達哉	林 貢生
5	朝永 亘	宮崎 啓大	富永優珠季		淵野 さくら	田中 希美	
6	西野未菜実	村枝 詩菜			松尾 将博	小副川侑莉	金崎 直哉

## ★★★令和2年度の事業、残り少なくなりました★★★

<3月末までにコミュニティ主催で行う事業は、以下のとおりです。>

※大草野小学校6年生お別れ登山(学校は、2月18日:木に計画。)前の道づくり予定 : 2月6日(土)10時~

※校区内一斉ゴミ拾い:3月7日(日)AM8:00~(時間は各区で調整。)

※情報誌「きずな」発行(総務広報部会事業):3月末までに配布

へへ編集後記へへ  
 ≪≪気になった言葉!≫≫

正月休みに入った頃から、コロナ感染者数が一気に増加していき、マスコミでは連日多くの時間を割いて報じています。ある番組で辛坊治郎氏が、「極論すれば、七十歳以上の高齢者が、(行動範囲が広い)若者に近寄らないように注意して過ごせば、感染症の分類上は、それ程恐くないウイルスなんです。」と、言っていた。何故七十歳以上かと言うと、コロナが原因で亡くなった方の内、七十歳以上が八十五%を占め、圧倒的に割合が多いそうだ。高齢者や基礎疾患がある方は本当に注意をしようがいい。

コロナ関係のコメントで、気になった言葉があつて、それは感染症対策分科会会長の尾身茂氏の「個人の努力だけに頼るステージは過ぎた」と言う言葉。真意は、自治体や国と一体となつて危機感を共有しなければならぬ段階になつている、という意味だろうが、聞き方によつては、「個人だけでは、いくら努力しても足りない。」と聞こえないか? 表現の仕方でしょうか、これ大限注意をし、それに加えて……という言い方をしてくれれば国民もやる気になつただろうにと、ふと思つた。